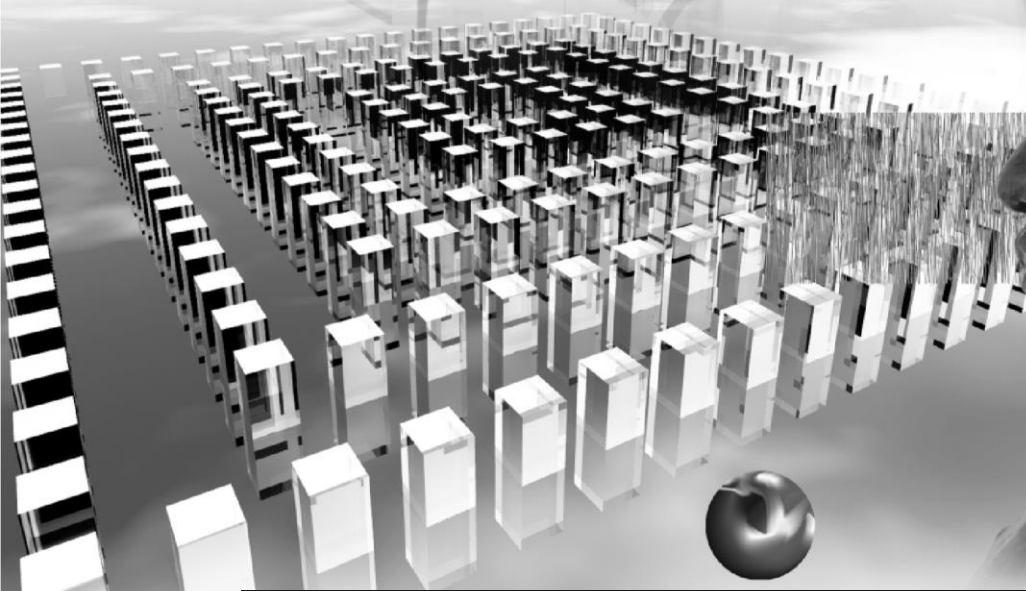
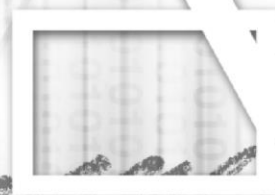


KOCHI TECHNICAL HIGH SCHOOL

会報

No.56号

平成29年2月



高知県立高知工業高等学校同窓会

目次

平成29年度同窓会総会のご案内・参加申し込み

ご挨拶	1
同窓会会長・校長・教頭	
記念講演より	4
卒業半世紀	9
機械科・電気科・工業化学科・土木科	
卒業四半世紀	14
工業化学科	
職場だより	15
支部便り	17
東京支部・静岡支部・東海支部・大阪支部・安芸支部・ 物部川支部・嶺北支部	
平成29年度開校記念ゴルフ	22
『工業、富国、基』読書感想文表彰	24
母校だより	25
進路指導部より	25
進学指導部より	27
部活動の成績	28
本部より	29
高知県立高知工業高等学校同窓会会則	32
個人情報保護に関する方針	34



同窓会は人材の宝庫

同窓会会長 包國 勝（昭和39年機械科卒）

理念「工業富国基」により明治45年に開校した本校は100年の節目の事業を果たし、次なる目標に向かって邁進しております。この間卒業生は3万人になろうとしており、全国でも屈指の工業高校として名声を馳せております。これも卒業生各位のご努力の賜物と感謝申し上げます。

各分野での活躍は枚挙にいとまがありませんが、そのうち最近の事例を紹介します。毎年高知県で開催されています「ものづくり総合技術展」は、高知県内で「ものづくり」に携わる事業者の皆様、優れた技術・商品の紹介や、商談を行う場を提供することで、本県の「ものづくりの地産地消」と「地産外商」を一層推進することを目的とし、官民を挙げての一大事業です。3日間開催される初日の基調講演で、27年度第4回展には「先端映像技術の研究とものづくり、そして今思うこと」と題して、昭和41年電気科卒業の谷岡健吉氏（元NHK放送技術研究所所長、東京支部桂工会支部長）が行いました。続いて28年度第五回展は「夢なきもの歓びなし」と題して、昭和48年機械科卒業の山本修弘氏（マツダ株式会社、元4代目ロードスター主査）が行いました。いずれも「ものづくりのイベント」にふさわしい基調講演であったと各方面から高い評価をいただきました。2年続きで本校卒業生が講師を務めたという事は、それだけ人材が豊富であること、ものづくりの学校として存在価値が高いことの証明だと思いきや誇りとするところです。28年度同窓会事業も順調に遂行できました。これも会員諸氏のご協力のお陰と感謝申し上げます。各支部の総会も参加させていただきました。

総会のあり方は場所や参加人数によって異なりますが、11月に開催された静岡支部での話を少し紹介します。参加会員数は11名で家族的な雰囲気の中で総会、懇親会が始まりました。

参加、欠席会員からのメッセージは紙面で配布されましたが、近況報告の中で皆さんに共通することは「仕事は必要な時、必要なこと、必要なだけ、ボランティア精神でやっている」という事で、そこには「現場で築き上げた高い技

術力や強い精神力」が生活の根底にあるという現実でした。

80歳をとっくに過ぎた先輩は、「もうそろそろ凶面の製作はきついな」とも語っていました。

同窓会には厳しい時代を乗り越えた先輩方や多彩な活躍をしている若い会員も多く、人材の宝庫です。会員の体験や活躍を「OB体験記?」としてネット上で紹介することも同窓会の役割かなと考えています。その節には皆様からの投稿やご意見をお願いします。

28年度は青年部を立ち上げ、各事業を遂行しています。物部川支部も立ち上がり7月9日に初の総会を開催し、活動を開始しました。今年の総会は平成29年4月29日（土）昭和の日に開催します。今年は功労者表彰や三世代表彰なども行います。5月4日の開校記念日については、学校側の全面協力を得、開校記念事業を開催する予定です。

簡素で使いやすいホームページも開設しております。同窓会本部並びに各支部が主催する総会などの本部発信情報の他に、各支部やクラブが自由に書き込むことのできる独自のページもあります。

各支部はもちろんクラブ単位での管理投稿ができること、会員個人よりの投稿もできる構成になっております。多くの方に閲覧と活用をして頂きたいと存じます。

なお今後も工夫しながら充実した情報提供手段として改良していきます。

組織の健全運営については、終身会員の拡大を図ることや、企業広告を利用することで安定した収入を確保し、効果的な支出計画を立てていきます。今年も各支部総会に参加する若い会員（新成人会員等）の参加会費を本部負担とするなど、組織活性化の援助を継続していきます。

まだまだ課題も山積しておりますが、今後とも会員の皆様のお知恵を頂き、開かれた同窓会として発展していきますよう、ご協力とご支援を宜しくお願いし、ご挨拶とします。



ご挨拶（校長）

校長 横畑 健（昭和53年情報技術科卒）

同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと存じ上げます。また、日ごろから本校の教育活動の充実・発展のためご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

同窓生の皆様がそれぞれの地域・職場でご活躍されながら、母校に対しても気に掛けていただき、ありがたく、感謝しております。

本年は2年に一度の体育祭を開催しました。平日開催の日程でしたが、多くの保護者や同窓生の皆様にも参観いただきました。土木科が優勝し、30連覇を飾りました。この連綿と続く団結力と伝統は素晴らしいもので、他科も土木科に追いつけ追い越せと励み熱戦が繰り広げられ、大いに盛り上がる体育祭となりました。

11月中旬には「高知県高等学校技術競技会工業の部」が行われ、県下の工業系学科・コースで技術を学ぶ生徒が、日頃の学修の成果を競い合いました。本校からも84名が参加し21名が最優秀賞を獲得しています。競技種目の一部は四国・全国大会への予選も兼ねており、4種目中3種目で出場権を得ています。

また、企業への就職希望者（卒業予定者の約6割）は全員が早々に内定をいただいております。16年連続就職内定率100%を達成しています。このことは、同窓生の皆様がそれぞれの職場や地域において、活躍され信頼を得ているからこそとあらためまして感謝申し上げます。

創設者の縁による早稲田大学理工学術院とは創立百周年記念事業を契機に教員の研修や、講演等継続的なつながりを持っており、特に教員研修につきましては、本年度からは本校のみならず高知県の工業教育に係る人材育成の一つとの位置付けとなり、県教育委員会からも更なる支援をいただいております。

また、5月2日に開校記念行事として昨年に引き続き、早稲田大学理工学術院から講師を派遣いただきました。本年は創造理工学部総合機械工学科 教授 宮下朋之 先生に「学生による超小型人工衛星の構想・製作・運用」と題して講演をしていただきました。

早稲田大学は小型人工衛星の開発・打上げの研究を進める大学の一つでもあり、宮下先生は宇宙開発に係る中心的な役割を果たすおひとりです。

宇宙を目指す壮大なロマンを実現するためには、高度技術、先端技術が必要ですが、それらを支えるのは、高等学校で学ぶ基礎・基本の技術の積重ねであります。本校からも高校生が中心となるCanSat（超小型模擬人工衛星）甲子園へエントリーできないか夢を膨らませているところです。

さて、生徒に“自ら力”を付けることを目的に始めた、高知工科大学との連携事業で本校独自の“探求型学習”は、三年目を迎えました。

本校は、全国レベルで勝負のできる学校、日本一の工業高校を目指そうと取り組んでおり、これらを具現化していくためには、“自ら力”を持って日頃の学習活動のみならず、学校全体ですべての学校行事で、あらゆる場面で、学校にイノベーションをとるという思いで、「イノベーションKT」を合言葉として用いて、革新・刷新を意識し、チーム学校（チーム高知工業）として取り組んでいこうとしております。

全体としてはまだまだ不十分ですが、インテリア設計士や測量士補、各施工管理者など難度の高い資格の合格者数や合格率は全国レベルに達しており、各種コンテストや競技会コンペなどでも、日本一の成果を出し、運動部も含め全国につながる県大会や四国大会でも、これまでなかなか越すことのできなかつた壁を超えるなど、少しずつ着実に成果を上げております。

こうした、生徒たちの日頃の様子、特に学校行事や各部活動の活躍状況、進路状況（就職・進学）など、また、「探求型学習」の様子も逐次ホームページに掲載しておりますので是非ご覧ください。

創設者から続くものづくりや人づくりの精神は、連綿と受け継いでゆく必要があります。学校を預かる者として、諸先輩方に続く将来のスペシャリストの育成につとめ、高知県の、さらに日本の中核を担う工業高校として全国に誇れ、生徒たちが自信をもてる専門高校を目指してまいります。

同窓生の皆様には今後とも更なるご支援・ご協力をお願い申し上げますとともに、同窓生の皆様の益々のご活躍とご健勝を、ご祈念申し上げます。ご挨拶といたします。

ご挨拶（教頭）

教頭 藤原 章弘

同窓生の皆様方におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。また、日頃は本校の教育活動にご理解とご支援を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

私は、本年度全日教頭として着任いたしました藤原章弘（ふじはらあきひろ）でございます。担当教科は（工業・電気）です。私は平成13年から平成21年まで情報技術科教諭として9年間勤務をさせていただきました。今回は2度目の勤務をさせていただいています。

久しぶりの本校勤務でまず初めに感じましたことは、生徒のみなさんが以前にも増してしっかりと挨拶ができていたことでした。部活動の顧問の先生方が中心となり、挨拶や言葉使いなど躰の指導に取り組んでいる成果が着実にでており、徐々に全校生徒に広がりを見せています。もう一つは、本校の生徒は遅刻・早退・欠席をする生徒数が極めて少ないことでした。生徒の登校日数の約3分の1にあたる日数において、校内で遅刻・早退・欠席の全く無い日となっており、本校生徒は遅れない。休まないという基本的な生活習慣が身につけている生徒が多いと思います。

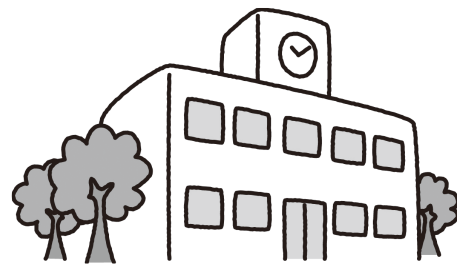
学校の行事では、10月7日（金）に第44回体育祭を開催いたしました。今年は平日開催に変更しましたが、体育祭の当日は保護者の皆様や同窓生はじめ多くの地域の皆様にご参観いただき、盛大に開催することができました。結果は青組（土木科）の連続30連勝という輝かしい結果で幕をとじましたが、最後の競技まで予断を許さない白熱した内容の体育祭となりました。

また、3年生の進路指導では、3年生の約6割の生徒（164名）が就職希望をしていますが、11月1日現在で（公務員希望者を除く）就職希望者の全員が就職内定をいただいております。就職試験対策では、昨年度に引き続き9月3日（土）に模擬面接会を開催させていただきました。模擬面接会では就職試験を直前に控えた生徒たちに、同窓生やPTAの皆さんが面接係と

なり、本番さながらの模擬面接を実施していただきました。面接係としてご協力いただきました39名の同窓生の皆様方にはあらためて厚くお礼申し上げます。

うれしいニュースとしまして、一般社団法人高知県交通安全協会から交通安全に対する永年の取り組みが高く評価され、交通安全優良校の受賞が決定しました。授賞式は来年1月に東京都で開催されます「第57回交通安全国民運動中央会」におきまして受賞となっています。学校ではこの受賞を受け自転車の乗り方指導など交通安全について一層の指導の徹底を図っていく所存でございます。

結びとなりますが、同窓生の皆様方には今後とも変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様方のご健康とご多幸を心よりご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



記念講演より

高知工業高校再訪

講師 岡部 聡（昭和57年土木科卒）

今回大変お世話になった同窓会会長の包國先生、そのお姿を高知竜馬空港の到着ロビーで見つけた瞬間、時間が止まったかのように一気に34年前にタイムスリップした。高知工業高校を卒業した時に、脳裏に焼き付けられた包國先生の姿そのものであった。若い時の柔らかな脳に刻まれた記憶は一生消すことができない。動物の持つ特性“すりこみ（imprinting）”のようである。

その夜、先生と夕飯を共にした。高校の先生とお酒を飲む、何だか不思議な感じに包まれ、いつもより酔いがまわるのが遅いように感じた。懐かしく大変楽しいひと時であった。

翌朝、高知工業高校を卒業して34年ぶりに校内に足を踏み入れた。私の記憶に残っている風景とは違ったので、懐かしいという感動よりも、探索してみようという好奇心のほうが強かった。一年に360日は通っていた体育館も、水を浴びるように飲んでいた水道も、そこにはなかった。新たなものへと変わっていた。この時やっと、34年の長き月日を実感した。高知工業高校との出会いなくして現在の私の存在はないわけであるが、この長き34年を振り返ってみれば、多くにの出来事の連鎖の1つであり、決して一本の線ではない。その独立した高知工業高校時代と現在の私を描き、両者を一本の線で結び付けたい。

“たまたま”の人生

私は決断力にかけける優柔不断な人間である。私が高知工業高校を受験した理由は、単純で、兄2人が高知工業高校土木科に行っていたからである。ある意味私にとって必然であったように思う。3年生になり就職を考える時が来た。周りの友人は早々会社から内定を貰って残り少ない学生生活を満喫していた。一方、私は、どうしようかぐだぐだ煮え切らずにいるうちに、公務員の試験はすべて終わり、民間企業も門戸を閉めかけていた。私の心の中には、漠然と“進学”という思いもあったが、具体的に進学先の調査やその準備は全くしていなかった。ある日、書店で進学関連雑誌の中から偶然にも宮崎大学土木工学科を見つけ出した。願書締め切りぎりぎりが必要書類を準備し速達で郵送した。その後、宮崎大学を受験したが、全く手ごたえがなくあきらめていた。しかし、ここに神の救いの手が差し伸べられた。偶然見つけた宮崎大学に願書締め切りぎりぎり間に合って運よく拾ってもらった。本当にありがたいことであった。

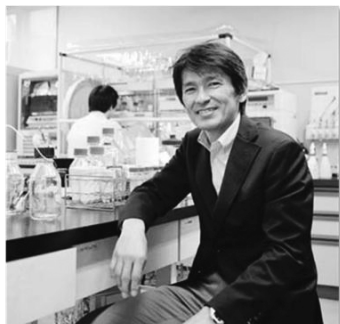
宮崎大学に入学後、部活動やいろいろな行事を楽しみ、4年間はあっという間に過ぎた。3年生の半ばぐらいから、作家 落合信彦の「アメリカよ！あめりかよ！」（集英社）を読みに影響されたのか、なんとなく俺もアメリカに行きたいと思うようになった。でも、インターネットなどない時代、どうしたらアメリカに行けるか？全く分からなかったし、情報もなかった。そんな中、とりあえず大学院（修士課程）に進学した。大学院で本当に“たまたま”アメリカに留学する機会を得た。23歳11か月で、あこがれのアメリカの地によく立った。しかし、思い描いていた楽しい留学生活とはかけ離れていた。語学力、研究力、日常生活すべてにおいて新鮮ではあったが、挫折を感じる留学であった。1年と少しの留学を終え帰国し、修士課程を修了後、日本の企業への就職する予定であった。しかし、この内定を蹴り、もう一度、アメリカの大学の博士課程に進学することにした。理由は、研究者になりたいなどそんなかっこいいものではない。修士課程での留学で、自分が何も知らない、出来ない、ことを痛切

に実感した。この悔しい情けない自分自身に“リベンジ”したかった。ただそれだけであった。その後、渡航費等を蓄えるため1年近くバイトをしながら博士課程入学の準備した。そして、1989年12月再度アメリカに渡った。モンタナ州立大学で紆余曲折の末、1992年12月やっとのことでPh.D（日本語では博士号）を取得できた。渡米してから3年目の冬であった。しかし、全く卒業後は未定であった。その時は既に家族もいたが不思議と不安はなかった。何とかなる、いざとなればハンバーガーを焼いて食べていこうと思っていた。ここで、また“たまたま”が起きた。突然、日本から電話があり「大学の助手のポストに応募してみないか？」という誘いであった。決して大学教官になることを望んでいたわけでもないし、なれるとも思っていなかったが、この電話に即答し従った。そして、今に至っている。明瞭な目的意識を持って大学に進学し、今に至ったわけではない。全くの独立した“たまたま”の事象が“たまたま”つながったのである。人生とは全く不思議でおもしろいものである。

“73億人の命の水”

現在、私は北海道大学大学院工学研究院に身を置き、水環境工学に関する教育、研究を行っている（図参照）。

研究・教育



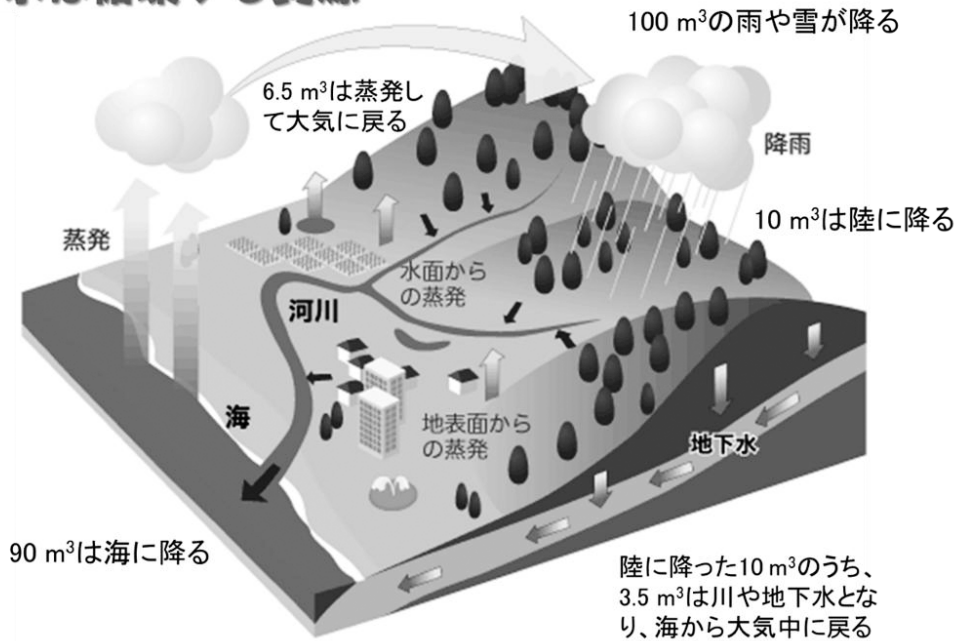
一生懸命実験に取り組む学生やスタッフ



地球上の総人口は既に73億人を超えている。日本の人口は2013年をピークに減少し始め、超高齢化が問題となっているが、世界的にはまだまだ人口の爆発的増加が、水、エネルギー、食糧の不足など様々な問題を引き起こしている。現在、世界人口の約40%が水不足の地域に生活しており、2025年には、世界人口の1/5（24億人）は極めて深刻な水不足になると予想されている。水資源は他の資源と違って循環している。降雨となって地上に降った雨や雪の約10%は、蒸発散して再び大気中にもどり、再度降雨となって地上に戻ってくる（図参照）。

この地球規模の水循環は教科書的に言えば2週間で完結すると言われている。したがって、理論的には水の使用速度がこの自然の水循環速度を上回らなければ、常に水不足に陥ることはない。しかし、今日、地球温暖化等による気候変動（ゲリラ豪雨や異常な干ばつなど）、人口の急激な増加、都市化、水質の汚濁により、私たちが使用できる“命の水”は不足している。特に水不足の問題は地理的に偏在する。20世紀は石油の時代であったが、21世紀は水の時代であると言われている。この日本で生活していたら、あまりその実感はないが、日本においても水は既に不足している（図参照）。簡単に説明すれ

水は循環する資源



ば、実際に我々が使用できる水の総量は、約1,000m³/日/人である。我々は、家庭用、工場用、農業用の水として、合計で約705m³/日/人使用している。しかしながら、忘れてはいけないことは、日本の食料需給率は僅か40%であり、食糧の60%は海外からの輸入に頼っている。すなわち、我々は海外（主にアメリカ）の水資源を使って、食糧を生産し生き延びている。現在、輸入している食料を、もし日本で生産した場合、必要となる水の量は520m³/日/人に相当する。前述の705m³/日/人とたし合わせると、実質、日本人が使用している水の総量は1,225m³/日/人となり、使用可能な水の量を1,225 - 1,000 = 225m³/日/人上回ることになる。すなわち、水不足である。信じがたいが、牛丼並盛を一杯食べるということは、清澄な水2 m³を飲み干したことに相当する。食料生産するにはそれだけ多くの水が必要なのである。

日本人が1人あたり1年間に使用している水の量

飲む水	約 1 m ³ /年・人	2.7 L/日・人
家庭用水	約 130 m ³ /年・人	356 L/日・人
工業用水	約 110 m ³ /年・人	301 L/日・人
農業用水	約 465 m ³ /年・人	1,274 L/日・人
合計	約 705 m ³ /年・人	1,931 L/日・人

・1人当たり年降水総量 約 5,000 m³/人・年
 ・実際に使用可能な水量 約 1,000 m³/人・年

忘れてはいけないこと

*参考資料： 沖 大幹 教授@東京大学生産技術研究所

・海外の水資源： 約 520 m³/人・年*
 日本の食糧自給率 = 約 40%

日本人が1人あたり1年間に使用している水の量
 合計～約 1,225 m³/年・人

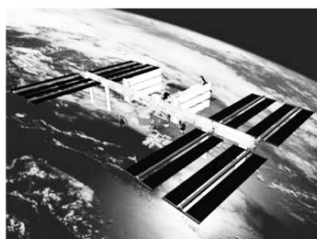
地球は水で覆われ、“水の惑星”と言われている。しかし、その97%は海水である。ならば、膨大な量の海水を淡水化すれば水不足は生じないのではないか？今日、我々は海水を真水に効率よく変換する技術をすでに有している。中東の国々ではこの海水淡水化技術により“命の水”を得ている。しかし、問題はエネルギー消費量が高いことである。エネルギーの観点から、下水を真水に変換する方がエネルギー消費量は少なくて済む。しかし、いくら十分処理したといえども下水を飲むことには抵抗がある。

世界をのぞいてみれば、既にシンガポール、アメリカ、オーストラリアなどで間接的ではあるが、下水再生水を飲料水の水源として使っている。前述のように、もし、日本が食糧需給率を100%まで高めようと思えば、農業用水が足りない。下水再生水は貴重な安定した都市の水源として有効に活用しなければならない。究極の例を挙げれば、国際宇宙ステーションの水利用である（図参照）。図に示すように、2009年から国際宇宙ステーションでは、尿を蒸留した水、空気中の水、使用済みの水を高度に浄化して飲み水としている。地球から宇宙船で水を運ぶよりは遥かに安価で、エネルギー消費も少ない。そう考えると宇宙飛行士も大変な職業である。

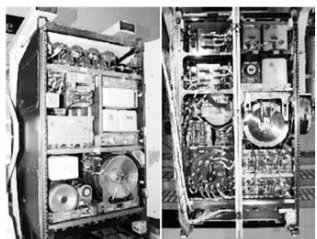
私は、新規微生物を利用した新規省エネ型高効率下水処理プロセスの開発を目的として研究している。微力ではあるが、かけがえのない水環境の保全や安全な水供給に貢献できるように、研究教育に力を注ぎたい。

究極の完全閉鎖型水循環サイクル

国際宇宙ステーション(ISS)



水再生システム
(Water Recovery System: WRS)



ISSではおしっこまで飲み水にする？

2009年5月21日から、水再生システム(Water Recovery System: WRS)を導入

- 尿を蒸留した水
 - 空気中を除湿した水
 - 使用済みの水
- 膜ろ過+浄水処理 → 飲料水
- (高温酸化触媒反応+イオン交換膜+殺菌)

再生水を手にする若田宇宙飛行士ら
第19次長期滞在クルー



宇宙航空研究開発機構(JAXA)のHP (<http://iss.jaxa.jp/>)より

“すりこみ”

鶏の雛が卵から孵化した時、初めて目にするものを親だと思い後をついて回ることはよく知られている。このように動物は、ある時期に、特定の物事を短時間に深く覚え込み、忘れることがないという特性を有している。これを“すりこみ”というらしい。大学4年生になると卒業研究が課せられる。初めて研究というものを経験する時である。指導教官の先生から研究テーマを与えられ約1年間、研究に取り組むことになる。理系の学部では、連日深夜まで研究室に残り論文を読んだり実験をしたら、ゼミの発表準備をしたり、忙しい毎日が続く。我々のこの研究にも“すりこみ”に似たことがある。大学の教官として頭を悩めることは、研究テーマの設定である。今年は、どんなテーマについて研究するかを決めることは大変重要であり、時間がかかる仕事である。日頃からアイデアを温めているが、その研究テーマがすでに他の研究者によって研究されていたり、いろんな制約条件により自分の研究室で実施できないことも多々ある。そんな中、私の周にいる先生方は、大学時代に行った卒業研究のテーマに再び取り組んでいる40-50代のベテランの先生方が少なくない。卒業研究以後、いろいろな研究に20-30年

間挑戦し、再び原点に戻るといふことであろうか？卒業研究の時には気づかなかった新たなアイデアがひらめいたのであろうか？非常に興味深いことである。

“鉄は熱いうちに打て”や“三つ子の魂百まで”など同様の表現がある。物心ついた時期、小学校、中学校、高校、大学、そして社会人と、その節目節目で、“すりこみ”が起きていると思う。大学の教育研究に携わる者として、学生に何をすりこむか極めて責任重大であると思う。多くの分野で最近、日本の技術力の低下が叫ばれている。日本の技術は世界一と言われた時代はもう昔のことのようである。日本が再び自信を持てるようになるには、人材育成これ以外に近道はないと思う。残された時間は短く、微力ではあるが、若人に50年経っても燃え尽きることない情熱（Passion）を“すりこむ”ことができれば幸せである。

“走ること”

私の趣味は“走ること”である。高知工業高校陸上部のように全国レベルではないが、走歴役24年のベテランランナーである。なぜ走るのか？と良く聞かれる。ダイエットや健康のためなんてかっこ悪くて言いたくない。自己ベストを更新するため、レースでライバルに勝つためである。私の好きな作家城山三郎は、「大人が一年間ムキになってやれば、たいていのことは、りっぱな専門家になれます。」と言っている。私もまったく同感である。大事なことは“むきになって”すなわち“一生懸命”1年間継続すること。ということである。しかし、1年間何かを継続することは容易でない。私は24年間走り続けたことを誇りに思う。私の信条は、練習は決して無理をしないことである（6割程度にとどめる）。怪我をしたり、嫌気がさしたりしない程度に練習を1日1日継続することである。幸いにも身体にまだガタが来ていない。これも、高校時代のバレー部の猛練習の賜物と思って感謝している。ある種の身体への“すりこみ”であろうか？現在の私の目標は“日本フルマラソンラン年齢別キング”で100位以内に入ること、そして最低70歳ぐらいまで現役ランナーであることである。外は寒く雪が舞っているが、今日もまた冷たいシューズに足を入れる。常にチャレンジャーでいたい。

走ること



“最後に”

今回、34年ぶりに母校高知工業高校に帰ってきた。私に身体に“すりこまれた”高校時代の様々な事象に再びスポットライトの中に浮かび上がり、よみがえった。このような素晴らしい貴重な機会を与えていただいた、高知工業高校同窓会会長包国勝先生をはじめとする関係者の皆様に心からお礼申し上げます。最後に、母校 高知工業高校のさらなる発展をお祈りいたします。

卒業半世紀 (昭和41年3月卒)

卒業半世紀を経て

川田 公一 (昭和41年機械科卒)

高知工業卒業から早くも半世紀、卒業50年の記念行事に参加させていただいてありがとうございました。機械科卒の参加者が少なかったのはちょっと寂しい感じでした。馬鹿言っただけの仲間と少しばかりの思い出を話したらよかったかなと懐かしんでいます。学生時代は、勉学に励むでもなく、かといってクラブのラグビー部でラグビーに打ち込んだわけでもなく、なんとなく昔のノンポリ学生の学生生活を過ごしました。家内に一年生から学年が上がるにつれて成績が急降下したことを話すと、落下傘の学生時代やねとからかわれています。それでも映画と飛行機とビートルズにちょっと感化されていました。親しくしていた仲間がビートルズについて、彼らは間違いなく20世紀の偉大な音楽家になるだろうと言いましたが、私はただのポップな流行だけで終わるだろうとその友に反論しました。結果は皆様ご存じの通り20世紀の偉大な音楽家と評価されるまでになりました。特に音楽に造詣があったとも思えないその友が予想した通りの結果となったことは、今でも不思議でどうしてそれほどの洞察力があったのか、その友に一度質問したいと考えていますが、工業卒業2年か3年の後に連絡を取り合わなくなり、その後この質問をしておりません。会ったら一杯やりながらその話題を語り合いたいものだと思っております。工業卒業後は、飛行機に乗りたくて2年間浪人生活の後、ようやく防衛大学校に入校できました。この学生の一年生の時、軍人として私の座右の銘としてきた言葉を先輩から聞きました。それは「軍人は冷や飯を食え」という言葉です。今でも軍人がもてはやされる時代はいい時代ではないとの信念は変わりません。航空自衛隊の操縦過程もあまり目立つ成績でもなく卒業しましたが、最初の戦闘機部隊に赴任した後、ここでも私の座右の

銘としている言葉を先輩から教わりました。それは「おいパイロット人生、生き残ってなんぼぞ」と言うことです。その言葉のお陰か、無事に自衛官生活定年を迎えて現在に至っています。

これからも「生き残ってなんぼぞ」の心意気で生活していくつもりです。

高知工業の益々の発展と卒業生間の親睦を願っています。



卒業半世紀の人生に感謝

山崎 正男（昭和41年電気科卒）

○入学時の状況

私は佐賀中学校を卒業し、高専の受験に失敗し、何とか工業に入ることが出来ました。

工業に入ったのは、早く卒業して、大学もいかに働けるとの思いがあったからです。

アパートは棧橋通3丁目で四畳半のアパートで母と同居、狭いものでした。

○バスケット部のこと

（選んだ人生を生きるしかない）

入学と共にバスケット部へ所属、3年間を過ごした。この時の同期が刈谷、藪田、小笠原らである。先輩は今名前が浮かばず。後輩は吉川、加藤、山本、堀田、現会長吉村等である。クラブ活動の良さは先輩後輩の信頼と絆である。バスケをやってよかったことは人との協調を大事に出来たこと。生きのびる根性や成し遂げる根性が出来たことです。

合宿の飯のうまさ、汗の臭さ、練習のきつさ、かばい合い、励まし、持続と瞬発力、気合の入れ方、我慢のしどころ、いろいろ覚える。私は万年ベンチの予備軍でしたが、高知城まで走り、階段で砂入チューブを付けうさぎ跳び、裏山で駆け上り、観光客に励まされ、つらくも良き思い出である。

練習の前後に近くの雑貨屋でかじったパンと牛乳のうまさ、腹減った後のラーメンのうまさ、青春のほのかなあっさりした味であった。部室の汗の臭さは格別であった。シャツ、靴下、シューズ、グリス、カビのにおいなど、すべてが共に苦しい練習から培った匂いである。

息が詰まるようなときもあった。バスケだけなのか、どの部も同じであったろうか。

夕方の電車通りを練習中にじゃんけんで負けたら、上半身裸になり、当時の商業の女子の帰る前を走らされるのは恥ずかしさと嬉しさが交錯したものだ。

四国大会に出場、3分ぐらい出してもらったことがある。海南高校の大きくて、ダイナミック

な強さを覚えている。靴下も赤っぽい感じで強さを感じたことだ。

松山で泊り、先輩たちと旅館で過ごしたひと時もよき楽しさであった。

初めてプロのバスケットチームを県民ホールで見たときは動き、ジャンプ力、シュート力すべてに迫力を感じたものだ。自分より後輩の中で入部した者は素晴らしいものばかりで、個性も人間性も良く、先輩として立ててくれてありがたく思ったことだ、今でも彼らは素晴らしい。

○高校生活の思い出 ポート・映画・友人 （いま、為すべきことを成す）

同級の横山と中間試験の合間を縫って、学生服のままオートバイで室戸まで行く。二人乗りで彼の実家を訪ね、往復したのが一番の思い出である。

そのころは鏡川のポートにも少し乗った記憶もある。OS劇場でよく西部劇や洋画を見たものだ。スペンサーの山なんか感激の映画であった。コレクターなんかは危険な映画であった。

伊野の河原でウイスキーを飲み、卒業間近の喜びを友人たちと分かち合ったことだった

佐川の虚空藏山にクラスで行ったことも良かった。

○卒業と就職

（困ったときの神頼み）

就職試験に東京都調布市の会社に受験に行ったが、受験の帰りに東京駅で切符を買う際に足元に置いてあった黒いカバンがなくなり、とっても心配したことがあった。鉄道警察に事情を申告し届けておくと、ひと月ぐらい後に横浜駅に上がったとの連絡があった。高知まで送ってもらい、中身の教科書やノートが見つかり、胸を撫で下ろしたことだった。

ちなみに当時の東京高知間は片道23から24時間もかかっていた。

○学力の違いと時代の変化

(友がみな、われより偉く見える日よ・・・)

卒業と同時に上京し、会社の寮から会社まで10分程度の距離で通うことになったが仕事で一番先に感じたのが高校卒で胸を張って仕事に就いたものの、企業や社会の進歩とは、10年の差があり、挫折と失望感があった。学力は大学を抜けてなければ通用しないと思った。すでにLSIとか工学電子機器の時代に突入し、NEC出向中は今のコンピューターの機器を製造していたのに驚いたものだ。会社で初めて電話で話すのが一番怖かった、電話で話すと方言が通じにくく、東京弁は舌を噛みそうで標準語に慣れるまでが大変であった。

○寮生活と先輩たち

(人には添うてみよ、馬には乗ってみよ)

寮や会社の食事のことでは、朝は会社のチケットで朝食、昼も会社で社員食堂、夜は西調布駅近くの食堂で済みます。外食はABCのランク中で常に一番安いランチで、早く上級のランチが食べたいと願望したことだった

風呂は近くの銭湯で50円だったが飲み食いでお金が底をつくとも、風呂も行けず、寮の洗濯場の水道でホースを使い震えながら体を清め我慢したものだ。

入寮の時は4人の先輩がマージャン中で一時隣の部屋で休めと言われ、待っている間、これは嫌なところに来たなと思ったが、彼らのゲームが終わると暖かく迎えてくれ、近くの食堂の出前のニラ炒めや餃子で歓迎してくれた。その時のビールがサッポロジャイアンツであった。

また翌日には調布の映画館へ、高倉健の唐獅子牡丹鑑賞で歓迎してくれた。良き先輩方に巡り合えたと思う。今はこれらの先輩には連絡が取れず、残念に思っている。

寮生活の楽しみは、気心の合う者同志のマージャンやたばこ、食事で助け合うことだ。おかずを出し合ったり、ご飯を炊いたり、テレビをみたり、夏場は3寮の祭りを交代で行い、女子寮を入れての納涼大会が待ち遠しかった。

○帰郷と再就職と退職

(捨てる神あれば、拾う神あり)

東京も7年弱で帰郷。結婚生活子育ての中で約40年間を地方公務員で仕事をし、無事退職。

現在は行政書士・町会議員として、少しでも世のために役立ち生きる目的で、人生の意義を確かめながら生きています。

世の中では、人の世話になりながら自分は生きる。人生を語りあえる人は少ないけれど、自分と関係してくれた人々は、皆がよき方であり、有難いことだと思う。

無念にも亡くなられた素晴らしい先輩たちにも感謝すべき人が多かった。

○最後に

(人は石垣、人は城)

高知工業卒業50年の歳月の流れの中で、母校に対して残すものは何もないが、高知工業を卒業したことやバスケット部を経験させてもらったお蔭で、現在も人生が続いていることに感謝をしたい。今は青春の遠い思い出になったが、学校当時を振り返りつつ、我が人生の反省をしたいと思う。私の人生は、自分の力で知恵を出し、やってきたものは何もなくて、必ずや周りに人がいて助けられ、指導や助言を聞いて生き延びて来られたと感じています。

今後も皆様との絆を大切に、母校の発展はもとより先生方と同窓生の皆様の人生が豊かであることを心より御祈念申し上げます。50年の歳月に感謝をし、私の投稿とします。



卒業して半世紀を振り返って思うこと

古味 静夫（昭和41年工業化学科卒）

私は1966年に卒業して千葉へ来ました。その頃は遠浅の海を埋め立てて工場用地を造成している最中で、丁度五井まで完了、工場がたっていました。養老川の対岸の埋め立ては完了していたが砂漠状態でした。その後富津まで埋め立ては続くことになり京葉工業地帯を形成することになります。

入社した会社はコンビナートの中核のエチレンセンターでコンビナート各社に製品を供給する設備を運転していました。当初は年産3万トンその後10万トン30万トン60万トンと設備を増設して現在に至っています。

入社して約16年間2交代勤務の運転員をしていました。配管のピンホール部からガス洩れを音の微妙な違いで発見したり、タンク側壁の温度差で液面を推論し実測値と比較したり、圧縮機の冷却水配管に触り温度差から冷却水が流れていない事を発見したりと、五感をフル活用して仕事をやって来ました。又エチレンガスを出荷する際 熱交でガス化して圧縮機で昇圧してユーザーに出荷する設備を運転していた時、ポンプで圧力を上げて熱交でガス化して送る方が出荷量の調整が容易だと提案し設備を変更した。芳香族装置を運転していた時、癖のあるポンプが有り、1年に一度突然空引きし使えなくなる。偶然にもその現象を見た時、通常運転中よりポンプの吸入圧が下がっていた。原因を水と油のエマルジョン状態の液が吸入配管内で分離し油分が一定貯まると上昇する為と考え、対策として配管ルートの変更と配管に傾斜を付けて分離した油が戻り易くする事を提案して実施、その後この現象は起きていない。ベンゼン塔はサイドカットして製品を作っていたが、サイドカット量とリフラックス量を同時に操作してタワーの内部還流量の変化をさせなければ理論上運転状態は変わらないと考え実際に操作したら理論通りの結果を得られた。

その後、動機械保全の担当を約18年間通信教育の東京電機大学高校機械科の教科書を片手に仕事を通じて勉強しました。

転用した遠心分離機の故障が多い、遠心効果2400Gは転用先では不要と600Gになるように計算して回転数を下げ故障を少なくし、省エネでポンプのインペラを削り必要な揚程にする計算をして実施したり、故障原因からポンプの型式を変更（サンダインプンプ、ギヤポンプ、渦巻きポンプ→ロトジェットポンプ）したりと色々な事をさせて貰えた。P D C Aを完成させた仕事から計算に自信を持って仕事が出来たと思っています。

その後早期退職して現在は派遣社員として動機械のメンテナンス関係の仕事を現在も続けています。

現在も仕事を続けられるのはパソコン（エクセル）のお陰で一度理解した仕事に必要なデータはパソコンに保管しておけば必要な時簡単に取り出せる。

Vベルト張り値 撓みの計算式、嵌合の記号から数値に変換する式、トルク値を応力に換算する式、両端支持梁の計算式、配管圧力損失の計算式等を作りました。余裕が出来、再度応用力学の教科書を見ると今までより深く理解出来るようになりました。身のまわりで起きている事を自分の知識の中で計算して答えを出して、どうすれば検証出来るのか考えていくのは楽しい事です。

高校時代田所先生から教わった「教科書、ノート、参考書何を見ても良い試験」の意味。

藤原先生「人の言うことは疑え、先生でも嘘を言うこともある」これらは自分が体験した事実で、人は嘘をつくが機械は嘘をつかない。人の言うことは信用しなくてはいけないが鵜呑みにするな。少しでも分る努力を続ける事が仕事でも、人間関係でも大事だと思っています。教えれば先生、教われれば生徒、素直な気持ちで周り と接すれば人間関係も良くなる。

最後に自分なりに仕事が出来たのは一重に高校時代の先生、入社後の先輩、後輩、同僚に恵まれたものと感謝しています。

卒業からの50年とこれからの生き方

宮崎 勝年（昭和41年土木科卒）

高知工業土木科を卒業して50年を振り返ると高知県土木職員として採用され、最初の赴任地が室戸土木事務所工務課技師補として勤務を始めたのがスタートとなります。

何も判らないまま、先輩諸氏に仕事内容や勤務後のソフトボール・マージャン・花札・飲み会など色んなことを教えていただき青春を謳歌しました。当時の事で鮮明に覚えているのは、初めて河川の被災箇所調査に先輩方と一緒にやってポール横断測量を行い事務所に帰って野帳から横断図を作図していると、先輩はフリーハンドで平面図を描き、被災箇所を分かり易く明示しました。平板測量もしていないのに「この人たちは凄い能力を持っている方たちだな」と驚きました。

それから40年間、県内各土木事務所勤務で公共施設整備の設計や工事監督。本課勤務では予算要望や実施認可申請などで本省とのやり取り等、沢山の経験をさせて頂きました。在職中は台風等で被災した箇所を災害復旧工事で施設整備。土砂災害や河川浸水から生活住居基盤を守る防災施設整備。経済活動の基盤となる港湾施設整備や交通アクセス改善の道路改築工事など様々な実務をさせて頂きました。最後の5年間は公共施設の適正な維持管理計画の重要性や多様な利用者のそれぞれのニーズに合った構造のあり方や環境対策など、関係機関や地域の皆様と協働で検討を行う機会に恵まれました。これは今までの物造りから大きな転機を頂いた貴重な体験となりました。

県庁を退職して現在までの10年間は町内会などのお世話役の一端をさせて頂いています。県に勤務している時代は転勤等で住居地域との関わりは少なく退職後に初めて町内会の色んな行事活動を知った次第です。町内会でお手伝い活動をして見ると本当に多様な役割があり、お世話役の大変さが分かりました。各町内会では①役員は毎年輪番制で行なう所②数年単位で交替する所③主要な役員は出来るだけ継続している

所と様々です。皆が平等に町内会に関わり、行事関係は継続性を持って対応していく様な町内役員体制が一番望ましいのではと思っています。

町内会活動に関わり出して感じた事は、地域の先輩方の「人を引き寄せる能力の高さ」に驚かされる事です。継続して町内会町や主要役員を務めて居られる方々は全てこの傾向があります。我々団塊世代が主体となって町内会など運営する時代ですが、皆で支え合いながらニーズにあった町内会活動を継続する事が大切だと思っています。

これからの生き方を考える時、我々の30歳代に出来た団地は超高齢化・空屋（廃墟）などの課題が山積する時代を迎える事となります。又熊本地震が起きたように南海トラフ地震も何時起きてもおかしくない時となりました。しかし、先人たちが色んな困難な時代を切り抜け現在の繁栄を得たように、予想される事態に対して事前準備を怠らず地道に取り組んでいけば展望は開けると思います。高齢化は自然の生業であり元気な者達が隣近所に声掛けあい協調しながらのコミュニティーを大切に「健康で楽しい生き方」を目指したいと願っています。

この文を書いている時、ふと50年前に習った社会科教師の言葉が思い出されました。「カント・デカルト・ $\sqrt{3}$ 」。これは「各自人並みに生きていけ」という示唆だったのかと。



卒業四半世紀 (平成2年3月卒)

青春の祭り、その後25年間

駒木 淳 (平成3年工業化学科卒)

平成28年4月29日、世話人のお話しを頂いて以来ずっと楽しみにしておりました卒業四半世紀、半世紀会が開催され参加させて頂く事となりました。

世話人会でも相当久しぶりに見る顔、話す顔が多くコイツ誰やったっけ？

コイツ名前誰やったっけ？もありましたが、同級生とわかっているので直ぐにタメ口で会話ができ、楽しく打ち合わせができました。

自分は化学科で在学中は決して真面目な生徒では無く担任の先生をはじめ諸先生方に相当怒られ、心配をお掛けしてきた少し目立った存在だったと思います。だから今回久々に会うであろう各クラスの同級生に今胸をはって会えるやろうか？とか卒業後の25年を誇れるやろか？とか以外と繊細な事を考える自分を発見しました。

よく他の科の同窓会の話を目にして少し羨ましくなり、我が化学科も5年程前から同窓会を毎年開催するようになったのですが流石に20年の時の溝を一気に埋める事は難しくまだまだ5人程度しか集まりませんでした。そして四半世紀会のお話しを頂き、気合を入れて10名は化学科集めるぞ！と少々意気込んでみたのですが県外在住の者も多く到底及ばない人数となり、自分の不甲斐なさを痛感した次第です。

そして、この執筆のラストに関係してくる話で少し自分の仕事関係の話に変わります。自分は化学科卒業ですが辛抱足りずもあり、転職して21歳から土木技術者として高知県で勤務をし32歳で独立、法人会社として小さいながらも高知県や高知市から御指名を頂きながらなんと従業員と共に会社を継続しております。卒業後の25年間本当に楽しい事より辛い事のほうが多かったのですが、高知工業で先生方におっしゃっ

て頂いた何気無い一言（その時はたいして聞いて無い）や仲良く遊んだ友達の顔がどれだけ自分の支えになったか、数えきれません。

そしてその時、4月29日に今でもよく会う顔や25年振りに見る顔や誰やコイツ？に会う事ができました。酒も入り少し酔がり、楽しく同級生と会話をしておりました。……トイレ行ってくるわ！と誰かに伝え移動…でトイレの中で「おう駒木っ」と呼ぶ声が、顔を見ると昔仕事を教わった大先輩の姿が。

その後はその半世紀会のテーブルでお酒を酌み交わし、懐かしい昔話やら現在の近況報告やら、なんと二人も先輩がおり楽しくラストまで半世紀会のテーブルでお世話になりました。

高知工業を卒業された大先輩やったとはこの時まで知りませんでした。凄く距離が近くなった様な気がします。本当に高知工業高等学校卒業に誇りを持ち今後は今回のお二人の大先輩の様に次の世代への指導役になれる様より一層精進していく事を誓った2016年4月29日です。

高知県立高知工業高等学校同窓会の皆様本当に有り難うございました。

そして諸先生方、先輩方有り難うございました。

そして同級生よありがとう！



株式会社第一コンサルタンツ社長
右城 猛（昭和45年土木科卒）

昨年の8月31日に念願であった新社屋を高知市介良に完成させることができました。新社屋を建設した経緯や設備について紹介させていただきます。

昭和61年に故郷を守りたいという思いで高知に帰り、株式会社第一コンサルタンツに入社しました。平成19年に社長に就任したとき、「高知を守る」を経営のスローガンに掲げました。建設コンサルタントを生業としていますから「高知のインフラを守る」のは当然ですが、「高知を地震から守る」ことが私に課せられた使命であると考えました。

高知では南海トラフ巨大地震対策が最重要課題です。わが社でもBCP（事業継続計画）を策定していたものの、社屋は津波浸水区域にあり、旧耐震基準による建築でした。地盤は液状化の恐れがありました。

BCPを絵に描いた餅にしないためには、津波浸水区域外へ社屋移転する以外にないのですが、景気が好転する気配はなく、経営のことを考えるとその選択はありませんでした。

そんなときに、あの東日本大震災が起こりました。3ヶ月後に、高野光二郎氏（現・参議院議員）が「宮城県を元気にする高知応援隊」を結成したので、それにわが社の社員14名も加えていただき現地へ行きました。

津波による被災状況を目の当たりにしたとき、「どんなことがあっても社屋を被災させてはいけない。発災直後に現場に駆けつける準備を整えておかなければならない」と思い、5年以内に津波が来ない場所に新築移転することを社員に約束しました。

移転すると言っても、建築資金の目途も土地

のあてもありませんでした。高知市の平地部はほとんど津波で浸水します。周辺の高台は市街化調整区域に指定されています。社屋の敷地には1,000坪が必要と考え探し回ったのですが、社員の通勤や予算のことも考えると、適地が見つかりませんでした。

そんなとき、不動産会社「青い鳥」を運営されている池本洋一氏（昭和47年化学卒）にお世話いただいて現在の場所が見つかりました。平成25年9月のことです。高知市の東端に位置し、隣は南国市です。7キロ北には高知自動車道南国IC、1キロ南には高知東部自動車道南国南IC、6.5キロ東には高知空港があります。ロケーションは抜群です。市街化調整区域ですが、既存宅地なので社屋を建てられます。幸運にも理想の土地が見つかりました。

平成24年12月に起きた中央道笹子トンネル天井板崩落事故をきっかけに、道路施設点検業務が大幅に増えたことで予想以上に業績を伸ばすことができ、これによって資金の問題も解決できました。

新社屋は地域の防災拠点としての機能を備え、社員が誇りを持てる理想的な建物にしたいと考えていました。それで「社屋新築準備委員会」を立ち上げ、社員が希望する建物の間取りや設備を検討してもらいました。

その一方で、徳島大学、愛媛大学、高知大学、高知工科大学の先生方にお願ひし、防災拠点としての課題や対策についてアドバイスをいただきました。

建築工事は母校の大先輩である故・岸之上守代司氏（昭和16年建築卒）が創業した岸之上工務店に、土木工事は澤本健雄氏（昭和42年土木

卒)が社長されている富士建設工業に、舗装工事は大西隆氏(昭和47年土木卒)が勤務する前田道路に担当してもらいました。

東北の震災復興と東京の建築ラッシュで資材や職人の確保が困難な状況であったにも関わらず、建築工事の現場監督をしてくれた和田誠氏(平成3年建築卒)をはじめ母校の先輩や後輩の皆様のおかげで、当初の計画通り平成27年8月末に竣工することができました。私が決心して4年2ヶ月後でした。

社屋は公共の避難所と同等の耐震強度を持たせました。非常時用発電装置、防災井戸、衛星電話そして防災教育のための研修室なども完備しました。

熊本地震直後に会社がある介良野自治会からの要望を受けて、研修室と食堂を緊急避難場所として開放する災害協定を結びました。

建設産業では担い手の確保と育成が大きな課題となっていますが、わが社には高知工業高校出身者が毎年2~3名(大卒を含む)入社してくれています。現在は全社員の18%を占める21名となり、大きな戦力になっています。

今後はさらに社業を発展させて、高知の雇用を守り高知のコミュニティを守れる企業を目指したいと考えています。



東京支部（桂工会）

支部長 谷岡 健吉（昭和41年電気科卒）

東京支部（桂工会）の活動状況、年度内計画等についてご報告いたします。

4月29日の同窓会本部の総会・懇親会（ザ クラウンパレス新阪急高知）には支部代表として谷岡健吉が出席しました。

定例の支部役員会は6月12日に八重洲倶楽部で開催しました。今年度から東京支部同窓会の総会・懇親会の会場を芝弥生会館から銀座一丁目の「TOSA DINING おきゃく」に移すことになりましたが、役員会ではこの機を捉え、総会・懇親会の簡素化や会費値下げなどを行うことを決定しました。また、6月17日には、都築秀雄副会長（昭39土木）から植木裕司副会長（昭49年情報）への会計担当役員（兼務）の交代に伴う引継ぎ会を実施しました。

9月9日には、役員有志で総会・懇親会の開催の案内状などの郵送作業に取り組みました。

10月15日の13時00分～14時45分に「TOSA DINING おきゃく」で開催した総会・懇親会には、来賓として母校より、土木科の上原健先生、同窓会本部からは包國勝会長、北川雅規青年部長がご出席くださいました。また、高知県東京事務所からは小松信彦氏が、また高知県事業継承・人材確保センターからは吉田茂氏がお越しく下さいました。また懸案でありました若手の同窓会への参加ですが、上原先生による関東地域在住の「教え子」の皆さんへの強力なお声がけと、同窓会本部からの経済的ご支援で10名を越す若手の参加がありました。このため今年は久しぶりに若い皆さんの元気な声が会場内に響き渡るにぎやかな懇親会となりました。

今年度の高知県人会関係では11月25日の関東高知県人大懇親会に桂工会代表として池上博副会長が出席しました。

今後の予定としては、平成29年2月の本部同窓会入会式への出席、また3月に副会長以上による役員会を開催して28年度の東京支部桂工会の活動をすべて終えることとなります。

静岡支部（静桂会）

支部長 小川 純一（昭和37年機械科卒）

静岡県では、2020年東京オリンピックの自転車競技が伊豆市で開催する事が決まり、現地ではかなり盛り上がっています。他の競技のトレーニングキャンプ地の誘致も期待しています。静岡支部（静桂会）は平成13年11月に発足し、今年で15周年を迎えます。会員の平均年齢は70歳となりますが、皆さんそれなりに、お元気で頑張っています。今年も支部活動に尽力してまいりますので宜しくお願いします。

平成27年度活動報告

●平成27年11月15日

静岡支部（静桂会）総会開催（静岡市クーポール会館）
包國同窓会会長にご出席して頂き、賑やかな総会となりました。

●平成28年1月下旬

「卒業生に贈る言葉」寄稿
（昭和42年電気科卒 片岡 結）

●1月22日 静桂会懇親ゴルフ 愛鷹シックスハンドレッドクラブ

森本泰弘（昭和34年工業化学科）、小川純一（昭和37年機械科）、片岡 結（昭和42年電気科）が参加。



平成28年度活動報告

●平成28年4月29日

本部総会へ支部長が出席（クラウンパレス新阪急高知）

●5月下旬

新入会者（静岡産業大学生）と連絡

●11月6日（日）

静岡支部（静桂会）総会開催（静岡市クーポール会館）

東海支部（南風会）

支部長 松村 司郎（昭和36年電気科卒）

平成28年度活動報告

私は東海支部・南風会設立以来30年以上も支部の活性化に取り組んできました。近年、その成果がやっと出始め喜んでいます。

今年の支部総会では平成卒業組が参加者の半数近くを占めるまでになり、役員一同としても嬉しく思っています。

来年は若者のハートをがっちり掴むアトラクションを事務方と相談しており、昨年以上に賑やかな東海支部にしていきたく考えています。

●平成28年 6月10日

第15回 K&K会ゴルフコンペ（富士CC可児クラブ）7名参加（南風会より3名参加）

●7月2日

南風会総会（城西館）27名参加（本部より2名、新卒生5名、小松工業より3名）

●7月10日

小松工業中京支部総会（中日パレス）37名参加（南風会より10名出席）

平成28年度活動計画

●11月 第16回 K&K会ゴルフコンペ

大阪支部（鯨工会）

支部長 堀田 秀雄（昭和43年土木科卒業）

平成28年度活動報告

●平成28年 4月29日

本部総会 堀田支部長、藤村理事、杉山事務局長 出席

●5月14日

役員会開催（総会打合せ）（神仙閣 大阪店）

堀田支部長、中島副会長、大崎副会長、小橋副会長、木下副会長、杉山事務局長 出席

●6月18日 鯨工会総会開催（神仙閣 大阪店）

●7月16日 鯨工会役員会開催（総会反省会）（炭火焼 みや澤）

堀田支部長、小橋副会長、杉山事務局長 出席

- 11月5日 小松工業高等学校同窓会 関西支部総会（大阪マルビル 大阪第一ホテル）
堀田支部長、藤村理事、杉山事務局長 出席

平成28年度活動計画

- 平成28年12月 役員会開催予定
- 平成29年1月 拡大役員会開催予定
- 3月 役員会開催予定
- 3月 鯨工会・第40回ゴルフコンペ開催予定

安芸支部（芸工会）

支部長 高橋 雄（昭和32年工業化学科卒）

本年7月、母校第10番目の支部として、安芸支部の隣に「物部川支部」が結成されました。安芸支部一同衷心よりお祝い申し上げます。

設立にあたり、関係各位のご尽力に敬意を表します。同窓会の目的は、会員相互間の親睦や母校への支援等多々あると思いますが、先ずは、お互いが総会等を通じて、絆を深め、ネットワークを広げる事が、大切かと思えます。

今後の物部川支部の発展と会員各位のご健勝を、祈念申し上げます。

さて、今年も9月10日包国会長、藤原教頭、中野事務局長、矢野事務局次長にご出席頂き、支部総会を開催しました。総会では、会長から話のあった同窓会組織活性化策に大いに刺激を受け、11年目を迎えた安芸支部も、改めて会員増加に取り組んで行く事となりました。懇親会の盛り上がりは、二次会へと続き、カラオケで同窓の絆を深め合いました。

平成28年度活動報告

- 平成28年4月29日
本部総会（5名参加）
- 7月9日
物部川支部設立総会へ出席（会長、事務局長）
- 7月29日
役員会をホテルタマイで開催（役員7名）
- 9月10日
第11回芸工会総会を開催
（「百人一酒」 参加会員10名）
- 11月11日
役員会をホテルタマイで開催（役員7名）
- 12月8日
ホテル奈半利で忘年会開催予定



物部川支部

支部長 眞辺 慶一（昭和42年電気科卒）

本年度の総会で承認された新支部『物部川支部』設立総会が7月9日に野市町において開催。総会は来賓として本部役員、安芸支部役員の出席があり香南市、香美市、南国市、高知市の同窓生60名の参加のもとで開かれました。支部の名称を『物部川支部』とし、支部の会則が制定されました。

総会後の懇親会も盛り上がり盛会裏の内に新支部の誕生を祝しました。



新支部長 眞辺慶一氏の挨拶

平成28年度活動計画

●平成29年1月21日 平成28年度事業計画と予算の報告会開催予定

嶺北支部（吉野川会）

支部長 西村 行雄（昭和37年土木科卒）

初冬の候 同窓生の皆様方におかれましては、益々ご健勝の事とお喜び申し上げます。
本年は、9月の長雨で農作物の被害が大きく、当地域でも野菜の高騰が現在でも続いております。
自然との向き合いは大切ですが、人間の力には限界があり素直に受け止めざるをえません。
当同窓会では本年も、近年から取り組んでいる奉仕活動の公園の清掃活動を行いました。
活動に参加していただける会員の数も高齢化、少数化してまいりましたが、
より多くの同窓生に参加してもらえよう、頑張っていきたいと思っております。
当地区の卒業生のご協力をよろしく申し上げます。

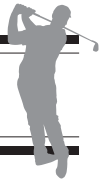
平成28年度活動報告

- 平成28年4月29日 本部同窓会総会出席
- 9月16日 嶺北支部役員会開催
- 11月26日 公園清掃作業、嶺北支部総会開催





平成29年度開校記念ゴルフ大会開催のお知らせ



平成29年開校記念ゴルフ大会のご案内・申込書

主催 高知工業高等学校同窓会ゴルフ部会

記

平成29年度開校記念ゴルフ大会を下記の要領で開催することになりました。
ゴルフ愛好家の皆様の多数の参加をお待ちしております。

1. 日 時 平成29年 4月28日（金曜日）
スタート 8時00分の予定（若干の時間の変更はあります）
2. 場 所 高知黒潮カントリークラブ 安芸郡芸西村西分甲5207 （TEL）0887-33-4455
3. 参加資格 同窓生 教職員 ご家族の方
4. 競技方法 18ホール ストロークプレイ HC ダブルペリア方式
5. 参加料 2,000円（プレー費は自己負担とする）
プレー費 ¥11,800（キャディ付） ¥9,800（セルフ）
6. 入 賞 優勝～第10位・飛賞（10位以降）・BB賞・ホテル賞・参加賞
7. 参加申込み・お問い合わせ
申込み・問い合わせ先 高知工業高等学校同窓会事務局
住 所 高知市棧橋通り2丁目11-6
TEL・FAX 088-831-4133
8. 申し込みは3月31日までにお願いいたします。（組合せ表は4月10日ごろ発送予定です。）
※ セルフ希望の方は申込時記入ください。
※ 出来るだけ1組単位での申し込みお願いいたします。
申し込みは郵送・FAX・電話で受付いたします、必要事項のご記入、ご連絡よろしくお
願い申し上げます。
又、組合せ表は決定後、代表者に郵送させていただきます。

『工業ハ富国ノ基』読書感想文表彰

新入生の皆さんに創立者の伝記『工業ハ富国ノ基』の読書感想文を書いてもらっています。優秀作品の表彰は、12月22日の2学期終業式の間で行いました。入賞した生徒さんは次の通りです。

最優秀作品を掲載しています。

- | | | | |
|-------|---------------|-----------------|--|
| ● 最優秀 | 徳島 隆夫 (電気科) | | |
| ● 優 秀 | 山本 智博 (機械科) | 佐川 竜也 (情報技術科) | |
| | 山崎 隆夫 (工業化学科) | 藤丸 淳輔 (土木科) | |
| | 佐藤 隆夫 (建築科) | 佐藤 隆夫 (総合デザイン科) | |

最優秀

夢の高知工業高等学校

電気科 徳島 隆夫

まず、僕がこの『工業ハ富国ノ基』という本を読んで思ったことは、明太郎先生の広い心と勤勉する力に驚きました。炭坑経営や鉄工所の経営、さらに学校設立という忙しい人生を過ごしたことに驚きました。

炭坑経営をするときには、町の人を第一に考え町の人を仕事に就かすなど、これほど心を広く持っているのは明太郎先生だけであろうと感じます。『心が広い』というのはただ友達や近所の人、お年寄りに対して親切にするのではなく、人のことをよく考えその人に合った対応をするのが本当の『心が広い』ということです。高知工業や早稲田大学理工学部を設立する際にも費用を出すだけで、設立してからも自分が出ると、何故教職員がいるか分からない、自分が出ていい幕とそうではない幕を考えていたのだろうと思います。

明太郎先生は政治家としても存在を示しています。板垣退助を中心に始まった『自由民権運動』や衆議院選挙にも参加しています。衆議院選挙への出来ごとはほぼ強制だったが、工業だけではなく政治参加までも行うということは大変ではないだろうかと思いました。

僕は、小学校のときからの夢である『電気工事士』に少しずつ近づいてきています。そもそ

も『電気工事士』を目指そうと思ったのは高知工業にあります。文化祭で電気工事の体験をしてすごく楽しかったからです。僕自身何を思ったのか分からないが、この学校に入学してやると思い、中学校でも進路決定のときも曲げずに頑張ってきました。このお陰で高知工業に入学できました。

明太郎先生は持論に「生徒を教育するにはまず、教師から」を持っていました。生徒を教育するには教師との交流を持って、ということではないだろうかと思います。最初の方でも述べましたが、自分が出てしまうと生徒と教師が作ってきたものが断たれてしまうからです。明太郎先生らしい答えであることも分かります。

最後に高知工業の校訓「磨け学 技 鍛えよ 体徳 誇れ郷土」を守り、勉学に励み工業技術を修得し資格取得を目指したい。部活で体を鍛え先生方先輩方友人達と励みながら活躍していきます。高知県をはじめ、生まれ育った芸西村に貢献できる人間になれるよう頑張ります。この高知工業でたくさん学びたいと思います。

母校だより

平成28年度の就職状況について

進路指導部長 澤田 浩志

本校同窓生の皆様には日頃より大変お世話になっております。進路指導部より本年度の就職状況を途中経過ですが、ご報告させていただきます。

本年度は162名の生徒が就職を希望しており、11/18日現在143名が内定をいただいております。内、公務員希望が17名ですので民間企業につきましてはほぼ終了している状況です。公務員では、高知市役所6名・高知県庁4名が技術職と一般事務で内定をしております。

次に求人数ですが、今年度も昨年に引き続き求人依頼は増加しております。特に県外企業からの求人依頼が大幅に増えており、製造業を始め土木・建設業など多業種にわたり求人依頼が発生しているのが特徴です。また、地区別では関東・関西地区の求人が特に増えております。ただ、限られた就職希望者の中で、すべての求人依頼にお応えすることができなく大変心苦しい心境であります。今後も、就職希望者の大幅な増加がない限りこの問題は解決しそうにありませんが、今年度は例年とは若干異なり、就職・進学希望率が半数ずつではなく、6割の生徒が就職を希望しております。これは、さまざまな報道等でもあるように高卒・大卒ともに就職環境が売り手市場の状況にある影響だと考えられます。一方、県内企業の求人も高い水準を維持していますが、昨年でピークを迎え高止まりをしていると思われます。

生徒は部活動や各科の先輩方とのつながりを重要視しており、これまで実績のある製造業を中心に各専門分野を活かした受験先を志向する傾向が続いております。結果、各企業でご活躍されている諸先輩方のお力添えや、就職試験直前の面接指導、進路ガイダンス等の各事業へのご協力による賜だと感じております。そのような活動が実を結び、各企業が本校に対する期待

度の現れとなって、ここ数年早い段階での内定をいただくことができております。あらためてお礼申し上げます。

求人数の推移(過去5年間) ※平成28年11月18日現在

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
求人総数[社]	389	410	524	591	706
県内求人数[社]	111	113	132	190	165
県外求人数[社]	278	297	392	401	541

生徒の就職先地域については以下のとおりです。今年も特徴としましては、愛知県を中心とした中部地区への内定者が多いことです。トヨタ自動車や関連企業をはじめ製鉄会社など大手企業が集中し、生徒からは人気の高い地区となっております。また、四国や中国地区は採用枠の拡大や高知県から近隣ということもあり、希望者が増えています。関東地区は例年同様若干名ですが、大手鉄道会社や建設会社への内定者がいます。求人数が多い割に希望者が少なく苦慮しています。何れの地区でも卒業生のご活躍により同窓会各支部活動の活性化が期待されます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

就職者の地域分類(過去5年間) ※平成28年11月18日現在

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
関東地区[人]	8	7	14	5	9
中部地区[人]	16	19	21	24	26
関西地区[人]	14	20	20	12	21
中国地区[人]	2	3	3	0	6
四国地区[人]	13	10	16	22	23
その他[人]	0	0	1	0	0
高知県内[人]	63(54%)	70(54%)	61(45%)	52	58(40%)
総計[人]	116	129	136	115	143

本年度の就職先一覧です。各地区におけるご指導よろしくお願いたします。

※平成28年11月18日現在

地区		事業所名	科	
関東	東京都	いすゞ自動車(株)	キ	
		小田急電鉄(株)	ト	
		(株)ディック電子	シ	
		東京急行電鉄(株)	ト	
		東京水道サービス(株)	ト	
		東京地下鉄(株)	ト	
		丸磯建設(株)	ト	
	千葉県	シャープサポートアンドサービス(株)	テ	
	栃木県	(株)本田技術研究所四輪R&Dセンター	キ	
	中部	愛知県	アイシン・エイ・ダブリュ(株)(高等技能学園生)	キ
アイシン精機(株)(アイシン高等学園)			テ	
愛知製鋼(株)(技術学園生)			キ・テ	
オークマ(株)			キ	
黒金化成(株)知立工場			カ	
KBツツキ(株)			カ	
(株)ジェイテクト(学園生)			キ	
新日鐵住金(株)名古屋製鐵所			テ・シ・ソ	
大同特殊鋼(株)(技術学園生)			キ	
中部電力(株)			テ	
中部飼料(株)			カ	
(株)東海理化電機製作所(学園生)			テ	
トヨタ自動車(株)(専門部生徒)			キ・テ	
トヨタ紡織(株)(トヨタ紡織学園生)			テ	
(株)豊田自動織機(技能専修学園生)			テ	
(株)デンソー(高専生)			キ	
(株)デンソー			テ	
日鉄住金テックスエンジ(株)			キ	
日本エコシステム(株)			ト	
日本特殊陶業(株)小牧工場			テ	
三菱電機(株)名古屋製作所			テ	
三重県			本田技研工業(株)鈴鹿製作所	テ
関西			大阪府	岩田地崎建設(株)
	(株)カネカ	カ		
	関西電力(株)	テ		
	(株)かんてんエンジニアリング	テ		
	協和テクノロジズ(株)	テ		
	(株)きんでん	テ		
	(株)クボタ	テ		
	コスモ石油(株)	カ		
	三栄電気工業(株)	テ		
	(株)太洋工作所	シ		
	内外電機(株)	テ		
	西日本旅客鉄道(株)	キ		
	滋賀県	(株)桑原工務店		ケ・ケ
		東洋ガラス(株)滋賀工場		カ
四国	兵庫県	川崎重工業(株)明石工場	シ	
		川崎重工業(株)	キ	
		(株)神戸製鋼所加古川製鐵所	キ	
		新日鐵住金(株)鋼管事業所尼崎製造所	テ	
和歌山県	花王(株)和歌山工場	カ		
	日鐵住金テックスエンジ(株)	キ		
岡山県	JFEスチール(株)西日本製鐵所	キ		
	JFE物流(株)西日本事業所	キ		
	(株)高田工業所	キ		
広島県	日新製鋼(株)呉製鐵所	ト		
	西日本高速道路メンテナンス中国(株)	ト		
	マツダ(株)	キ		
香川県	今治造船(株)丸亀事業本部	キ		

地区		事業所名	科	
四国	香川県	協和化学工業(株)坂出工場	カ・カ	
		一般財団法人四国電気保安協会	テ・テ	
		(株)デンロコーポレーション丸亀工場	ト	
		西日本高速道路エンジニアリング四国(株)	ト	
		丸一鋼管(株)詫間工場	ケ	
		三菱化学(株)坂出事業所	カ・カ	
		四電エンジニアリング(株)	ケ	
		愛媛県	四国通建(株)	テ・テ・テ・シ
			住友化学(株)愛媛工場	カ
			大王製紙(株)	キ・カ
徳島県	ダイオーミルサポート(株)	カ・カ・ソ		
	(株)大塚製薬工場	テ		
高知県	日亜化学工業(株)	カ		
	池田紙業(株)	カ		
	井上石灰工業(株)	カ		
	入交建設(株)	ト		
	ヴェオリア・ジェネット(株)	ソ		
	エスオーエンジニアリング(株)	カ		
	(株)SKK	キ		
	エステイハウス(有)	ケ		
	(株)小谷穀粉	シ		
	兼松エンジニアリング(株)	キ・シ		
	(株)岸之上工務店	ケ・ケ		
	(株)技研製作所	キ・シ・ソ		
	北村商事(株)	ト		
	金星製紙(株)	カ・カ		
	(株)酒井建設	ケ		
	サクセス工業(株)	ト・ト		
	(株)サン土木コンサルタント	ト・ト		
	四国電力(株)高知支店	テ		
	四国ビルウェア(株)	テ		
	渋谷食品(株)	ソ		
	住友大阪セメント(株)高知工場	キ・シ		
	セキスイハイム東四国(株)	ケ		
	(株)太陽	キ		
	(株)第一コンサルタンツ	ト		
	大旺新洋(株)	ト・ケ・ケ		
	ツカサ重機(株)	キ		
	東洋電化工業(株)	カ		
	土佐酸素(株)	カ		
	(株)轟組	ト		
	(株)トヨタレンタリース西四国	ソ		
	ニッポン高度紙工業(株)	テ		
	ハヤシ商事(株)	シ		
(株)平山	ケ			
福留開発(株)	ト・ト			
(株)フタガミ	シ・ソ・ソ			
ミタニ建設工業(株)	ケ			
(株)ミロク製作所	キ・キ			
(株)宮崎技建	ケ			
明星産商(株)	キ・シ			
ヤンマー農機製造(株)高知工場	キ			
(株)四電工高知支店	キ・テ・テ・ト			
高知市役所初級事務	カ			
高知市役所初級土木	ト・ト・ト			
高知市役所初級電気	テ			
高知県庁初級土木	ト・ト・ト			

最近の進学状況について

進学指導部長 安芸 暢英

昨年度の具体的な進学状況は、大学50名（国公立20名〔高知大学3名・高知工科大学16名・大分大学1名〕、私立大学30名）、専門各種学校63名、短大・ポリテク等が14名でした。（別表「平成27年度卒業生科別進学者数」を参照下さい。）高知工科大学は三年前から高知県内高校卒を削減し、入試制度においても一昨年从小論文が無くなり面接重視型に変わり、システム工学群では口頭試問が3年ぶりに実施されるなか、合格実績は全学群合わせて16名でした。

このように本校の最近の進学についてみると、例年のことですが卒業生の約半数が進学し、その約半数の60人前後が四年制大学へ進学している傾向があります。その中でも国公立大学への進学者数は30人前後と全国の他の工業高校に比べ多く、高い進学率になっています。中でも、地元の工業系大学である高知工科大学への進学者が多くを占めています。高知工科大学の結果は、全て高知県内高校卒を使用した推薦入試によるものです。また、他の国公立大学への進学は、専門学校卒のAO入試や推薦入試を使用することで実績を挙げています。

この状況の下、高知大学理学部は今年度より学部が改組され、理工学部となりました。学科は、数理物理学科・情報科学科・生物科学科・化学生命理工学科・地球環境防災学科で構成されています。推薦Ⅰの枠は、地域枠はなく前述の順番に（数学受験10人・理科受験8人）（10人）（10人）（13人）（8人）となっています。理学部であった頃、情報受験・理科受験（化学）で受験し、特に情報受験で結果を出してくれていました。今後においても、生徒に対して情報の口頭試問が科せられる情報科学科の10人枠（全国枠）を中心に、地球環境防災学科などにも口頭試問（物理・化学・地学から1つ）に対応できるかなど検討の必要があります。高知工科大学も入試制度が一部変更され、来年度入試からは、特別推薦が廃止されることや、システム工学群の推薦地域枠が10人減りその代わりに地域枠10人として学科試験を課すAO入試が始まります。

そして、全国的な流れとして大学入試改革として、2020年度（現中学2年生から対象）から「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」として、思考力・判断力・表現力を中心に評価することで大学教育を受けるために必要な能力を測定することを目的としたテストの実施が検討されています。内容は、現行学習指導要領下では、「教科型」で出題し、試験の科目数は、現在実施されている大学入試センター試験より簡素化、出題内容は思考力・判断力・表現力等に関する判定機能を重視し、その中でも英語は四技能の評価を重視すると言われています。また、2019年度（現中学3年生から対象）から「高等学校基礎学力テスト（仮称）」も考えられています。それは、高校教育の質の確保・向上を目的として高校の指導改善に活用することやAO入試等で参考資料としても活用可能と言われています。また、中教審は2019年の開学を目指し、実践的な職業教育を行う新しい高等教育機関として「専門職大学」の創設を答申しました。それは、成長分野の現場でけん引役となる人材を育成、企業内実習は4年制課程で600時間以上の履修を義務付けるとしています。

このように大学の学科改変や大学入試制度、専門職大学など大きく変貌をしようとしている中で、工業高校生徒の大学進学の手段方法に対してアンテナを張って情報を集めなくてはいけない状況になっています。同窓生の皆様におかれましても、ご助言等ございましたらよろしくお願いいたします。

最後になりますが、同窓会の今後ますますのご発展と、同窓会各位のご活躍をご祈念申し上げます。

平成27年度卒業生科別進学者数

	機械	電気	情報	化学	土木	建築	総合	計
国公立大学	1	3	9	1		5	1	20
私立大学	5	2	6	1	1	8	7	30
公立短大								
私立短大	1		2	2		1	4	10
高専								
ポリテク・他	1		1	2				4
職業訓練校								
専門学校	4	3	10	2	10	8	21	58
各種学校	1	2		1			1	5
計	13	10	28	9	11	22	34	127

部活動の成績

◇全国大会出場

ボート部

- 平成28年度全国高等学校総合体育大会ボート競技大会
- 第64回全日本高等学校選手権競漕大会
平成28年7月28日～8月1日
島根県雲南市 島根県さくらおろち湖ボート競技施設

自転車競技部

- 平成28年度全国高等学校総合体育大会自転車競技大会
平成28年7月28日～8月2日
鳥取県倉吉市 倉吉自転車競技場（開会式・トラックの部）
広島県三原市 広島県立中央森林公園サイクリングロード（個人ロードレースの部）

陸上競技部

- 平成28年度全国高等学校総合体育大会
秩父宮賜杯 第69回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
平成28年7月28日～8月2日
シティライトスタジアム

少林寺拳法部

- 平成28年度全国高等学校総合体育大会少林寺拳法競技大会
平成28年7月29日～7月31日
岡山県美作市 宮本武蔵顕彰武蔵武道館

ソフトテニス部

- 平成28年度全国高等学校総合体育大会ソフトテニス競技大会
平成28年8月1日～8月3日
岡山県備前テニスセンター

◇四国大会出場

ラグビー部

- 第64回四国高等学校ラグビーフットボール選手権大会
平成28年6月17日、19日
愛媛県 スカイフィールド富郷
高知県勢として25年ぶりにBブロックで優勝

陸上競技部

- 第69回四国高等学校陸上競技対校選手権大会
平成28年6月18日～20日
高知県立春野総合運動公園陸上競技場

少林寺拳法部

- 平成28年度第11回四国高等学校少林寺拳法選手権大会
平成28年6月18日～19日
高知工業高校体育館

ソフトボール部

- 平成28年度四国高等学校男子ソフトボール選手権大会
平成28年6月18日～20日
東温市総合公園多目的広場・かすみの森公園多目的広場

バスケットボール部

- 第69回四国高等学校総合体育大会
平成28年6月18日～19日
愛媛県松山市

ソフトテニス部

- 四国大会出場
平成28年6月18日～19日
香川県高松市

ボート部

- 第25回四国高等学校ボート選手権大会
平成28年6月17日～19日
香川県坂出市府中湖ボートコース

空手道部

- 第24回四国高等学校空手道選手権大会
平成28年6月18日～19日
徳島県

柔道部

- 第65回四国高等学校柔道選手権大会
平成28年6月18日～19日
徳島県 鳴門『ソイジョイ武道館』

自転車競技部

- 高校四国選手権大会 トラック競技の部
平成28年6月18日～19日
徳島県 小松島競輪場

相撲部

- 平成28年度四国高等学校相撲選手権大会
平成28年6月19日
高知市営相撲場

登山部

- 平成28年度四国高等学校登山選手権大会
平成28年6月17日～19日
愛媛県西条市 石鎚山

本部より

1. 事業計画・経過報告

月	日	事業内容
4	2	半世紀・四半世紀世話人会
	3	会計監査
	9	第1回常任役員会・理事会
	23	開校ゴルフ大会
	29	総会(ザクラウンパレス新阪急高知)
6	10	奨学資金貸与募集開始
	18	大阪支部(鯨工会)総会
7	2	東海支部(南風会)総会・野球部OB会
	3	第2回常任役員会
	9	物部川支部設立総会
9	3	就職模擬面接
	10	安芸支部(芸工会)総会
10	1	バスケットボール部OB会
	15	東京支部(桂工会)総会
	29	次年度半世紀世話人会
11	6	静岡支部(静桂会)総会

月	日	事業内容
11	13	次年度四半世紀世話人会
	19	土木科同窓会
	25	青年部会
	26	嶺北支部(吉野川会)総会
12	3	第3回常任役員会
	22	『工業ハ富国ノ基』読書感想文優秀作品表彰
1	28	轟組高知工業OB会
	29	青年部筆山公園除草作業
2		室戸支部総会
		同窓会会報(第56号)発送
	7	同窓会入会式(定時制)
	20	同窓会入会式(全日制)
3	20	生徒と県外支部との懇談会
	25	四電高知支部総会
	1	卒業者へ記念品・同窓会通信の配布
		幡多支部総会

2. 平成28年度役員

役職	卒年・科		氏名
名誉会長	昭和53	情報技術	横畑 健
会長	昭和39	機械	包國 勝
副会長	昭和38	土木	徳弘 昭宏
	昭和45	土木	右城 猛
	昭和46	電気	吉永 洋一
	昭和50	工芸	手島 健司
	昭和53	電気	池田 栄作
	昭和56	建築	筒井 眞二
	昭和59	土木	宮崎 功司
	昭和60	機械	北川 雅規
			山本 泰史
		藤原 章弘	
		山崎 貴雄	
監事	昭和51	電気	藤原 善行
	昭和54	機械	岡崎 良介
事務局長	昭和47	工業化学	中野 邦彦
事務局次長 (会計担当)	昭和46	電気	矢野 元朗

3. 新支部設立

本年度の同窓会活動の大きい目標に「組織の活性化」を掲げています。

活性化の具体的な取り組みの一つであった新支部『物部川支部』の設立総会が平成28年7月9日香南市野市町において開催されました。

支部会則の制定につづき会長（支部長）、副会長、事務局長、監事、理事の選出が行われました。総会後の懇親会には若い世代の参加が会を盛り上げました。



4. 青年部の設立

平成28年4月総会にて、青年部が発足しました。青年部設立の目的は、最近の本同窓会総会への若年層の参加者の減少への対応の為、幅広い年齢層へのジョイント出来る連絡網の構築であると考えています。

同総会活動の活性化を図るために事業展開をすることを目標に、おおむね50歳未満の方々と構成され、活動を始めました。20代、30代、40代と各世代の方へのアプローチについて工夫をするべく活動をしていきたいと思えます。

発足したての青年部なので、色々な方々のご意見を頂きながら成長していきたいと思えます。

平成28年11月に青年部会を開催しました。青年部として、下記の事業を柱に活動する事を承認決定しました。

1. 就職模擬面談の主体的対応（9月3日実施）
2. 創立100周年、記念植樹（筆山公園）の除草・清掃作業（1月29日予定）



青年部会：H28.11.25

青年部長 北川 雅規（昭和60年機械科卒）

5. 同窓会支部組織

同 窓 会 組 織			
名 称	役 職	氏 名 (卒年科)	連 絡 先
同 窓 会 本 部	会 長 事務局長	包國 勝 (昭39キ) 中野 邦彦 (昭47カ)	本部直通 TEL 088-831-4133 kths2004dousoukai@leaf.ocn.ne.jp
東 京 支 部 (桂工会)	支 部 長 事務局長	谷岡 健吉 (昭41テ) 岩崎友太郎 (昭40コ)	
静 岡 支 部 (静桂会)	支 部 長 事務局長	小川 純一 (昭37キ) 片岡 結 (昭42テ)	
東 海 支 部 (南風会)	支 部 長 事務局長	松村 司郎 (昭36テ) 金田 耕喜 (昭48テ)	
大 阪 支 部 (鯨工会)	支 部 長 事務局長	堀田 秀雄 (昭43ト) 杉山 康弘 (昭61ケ)	
室 戸 支 部 (室戸鯨工会)	支 部 長 事務局長	山本 總 (昭54ト) 前田 康司 (平3カ)	
安 芸 支 部 (芸工会)	支 部 長 事務局長	高橋 雄 (昭32カ) 黒岩 良行 (昭40テ)	
物 部 川 支 部	支 部 長 事務局長	眞辺 慶一 (昭42テ) 野島 浩一 (昭57ト)	
嶺 北 支 部 (吉野川会)	支 部 長 事務局長	西村 行雄 (昭37ト) 川村 博彦 (昭51キ)	
幡 多 支 部 (波多愛校会)	支 部 長 事務局長	福田 充 (昭44ケ) 小笠原 武 (昭52テ)	

6. 業務時間について

本部にご用の方は、下記時間帯にお願いします。

11：30～15：30 毎週（水曜日・休日・祝祭日を除く）



高知県立高知工業高等学校同窓会会則

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は高知県立高知工業高等学校同窓会と称する。

(目 的)

第2条 本会は、会員相互の親睦と向上を図ると共に、母校の隆盛・発展に寄与することを目的とする。

(本 部)

第3条 本会は、本部を高知市棧橋通2丁目11番6号高知県立高知工業高等学校におく。

第2章 事 業

(事 業)

第4条 本会は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

1. 会員の連携と親睦を深めるための事業
2. 母校の事業支援
3. 会員名簿の作成
4. 会報の発行
5. その他本会の目的達成に必要な諸事業

第3章 組 織

(会 員)

第5条 本会は、次の会員をもって組織する。

1. 正会員
 - (イ) 高知工業学校を卒業した者
 - (ロ) 高知工業高等学校を卒業した者
 - (ハ) 高知市立高知工芸学校を卒業した者
 - (ニ) 高知市立工芸高等学校を卒業した者
 - (ホ) 高知工業学校工場見習修了者及び技術員養成所修了者
 - (ヘ) (イ)、(ロ)に在籍した者で役員の推薦により会長が承認した者
2. 特別会員
 - (イ) 本校に特別縁故のある人で役員の推薦により会長が承認した者

(役 員)

第6条 本会は、次の役員をおく。

1. 会 長 1名
2. 副会長 若干名
3. 事務局長 1名
4. 事務局次長(会計担当) 1名
5. 監 事 2名
6. 理 事 若干名

(役員の仕事)

第7条 本会の役員は次の仕事を負う。

1. 会長は、常任役員会を招集し、会務を統括し本会を代表する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長不在若しくは事故ある時は、その仕事を代行する。
3. 事務局長は、事務全般を統括する。
4. 事務局次長は会計事務を担当する。
5. 監事は、会計を監査する。
6. 理事は理事会に出席し、常任役員会の諮問事項を審議する。

(役員を選出)

第8条 本会の役員は、次のように選出する。

1. 会長、副会長及び監事は理事会において正会員より選出し、総会の承認を得る。

2. 理事は、正会員の中から会長が委嘱する。
3. 事務局長、事務局次長は、正会員の中から会長が指名する。
4. 母校校長を名誉会長に推薦する。
5. 母校副校長、教頭を副会長に推薦する。

第9条 本会に顧問及び相談役をおくことができる。
顧問及び相談役は、常任役員会または理事会の推薦により会長が委嘱する。

(役員任期)

第10条 事務局長、事務局次長以外の役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

第4章 会 議

(会 議)

第11条 本会の会議は、総会・常任役員会・理事会とする。

(総 会)

第12条 総会は、本会の最高議決機関で、会長がこれを招集する。

(常任役員会)

第13条 常任役員会は、会長・名誉会長・副会長・事務局長・事務局次長・監事で構成する。
常任役員会は、本会の執行機関で、その任務は次の通りとする。

1. 総会で議決された事項の執行
2. 総会に提出する予算の編成、事業計画の立案、報告書の作成
3. 予算の補正並びに決算書の作成
4. 本会則の改正案の作成
5. その他必要と認める事項

(理事会)

第14条 理事会の構成は、顧問、相談役、理事、常任役員とする。
理事会は会長が招集し、常任役員会の諮問事項を審議する。

(会議の議決)

第15条 議決は出席会員の過半数による。

(支 部)

第16条 本会には、会員の多い地域・職域に支部を置くことができる。
支部には支部長をおき、支部長は会長の委嘱により理事となる。

第5章 会 計

(運営経費)

第17条 本会の運営経費は、入会金・会費・寄付及びその他の収入をもってこれに充てる。

(会計年度)

第18条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日をもって終わる。

第6章 会則の改正

(会則の改正)

第19条 会則の改正は総会において、出席者の3分の2以上の賛成を得なければならない。

(付 則)

昭和29年11月25日改正
昭和43年5月4日改正
昭和44年5月8日改正
平成3年5月4日改正
平成7年5月3日改正
平成23年5月4日改正
平成26年5月4日改正

高知県立高知工業高等学校同窓会個人情報保護に関する方針

高知県立高知工業高等学校同窓会（以下「同窓会」といいます）は、個人情報の重要性を認め、以下の方針に基づき個人情報の保護に努めます。

同窓会は、会則の第2条「本会は会員の親和並びに母校の隆盛を図ることを目的とする。」の目的を達成するための事業を運営していくにあたり、「個人情報の保護に関する法律」を遵守するため、以下の「個人情報の保護に関する基本方針」を制定し、会員の個人情報の取り扱いと保護について、日本国における法令等に従った個人情報の管理、利用を行ないます。

会員の皆さまの個人情報の取扱いについて

ご提供頂きました個人情報に関しましては、同窓会事業にのみ使用させていただきます。

会員名簿への非掲載をご希望の場合は、その旨を同窓会事務局までお知らせください。

もしご連絡が無い場合は、個人情報の名簿掲載をご承諾頂いたものとして従来通りの名簿掲載をさせていただきます。

個人情報の保護に関する基本方針

同窓会は、個人情報保護の重要性を認識し、「個人情報の保護に関する法律」及びその他の関連法令等を遵守して、会員に関わる個人情報の保護に努めるとともに、適正且つ公正な同窓会の事業活動を推進します。

1. 個人情報の取得

個人情報の取得にあたっては、適法かつ公正な手段で行います。

2. 個人情報の利用目的

個人情報は、同窓会会則の第2条に掲げる目的を達成するために、会員名簿の作成・発行、会報及び高知県立高知工業高等学校からの通信文書の送付など適正かつ公正な同窓会の運営に役立つ目的のみに利用します。

3. 第三者への情報提供

会員の同意を得ることなく会員以外の第三者に個人情報を提供しません。ただし、利用目的を確認し許容の範囲内で、高知県立高知工業高等学校、同窓会各支部、同窓会役員等に、会員名簿記載事項等の個人情報を提供することがあります。また、会員名簿印刷等の業務遂行上、必要な場合は個人情報の保全管理を外部に委託することがあります。

4. 個人情報の管理

保有または新たに取得する個人情報は、これを正確かつ最新の状態に保ち、不正アクセス・紛失・破壊・改ざんまたは漏洩などのないよう適切な管理を実施します。なお、業務遂行上、個人情報の保全管理を外部に委託する場合は、契約書を締結して同様に適切な管理を実施します。

5. 保有個人情報の開示、訂正、利用停止等

本会は、本人が自己の個人情報について、開示・訂正・利用停止・消去等を求める権利を有していることを認識し、会員よりこれらの要求がある場合には、法令に従い速やかに対応します。ただし、会員名簿への非掲載希望については、希望時期により対応できないことがあります。その場合、次の名簿より非掲載とします。

6. 法令等の遵守・個人情報の保護に関する基本方針の改定

個人情報に関して適用される法令等を遵守するとともに、法令等の改正に従って、この個人情報の保護に関する基本方針を改定するなど、継続的な改善・向上に努めます。

平成19年6月12日
高知県立高知工業高等学校同窓会

■個人情報についての問合せ先

Tel：088-831-4133／Fax：088-831-4133
e-mail：kths2004dousoukai@leaf.ocn.ne.jp
高知県立高知工業高等学校同窓会



高知県立高知工業高等学校同窓会

〒780-8010 高知県高知市棧橋通2丁目11-6
tel 088-831-4133 fax 088-831-4133

公式ホームページをご活用ください

[http:// kthsdoso.org/](http://kthsdoso.org/)